

## 事項五 米國ニ於ケル排日關係雜件

二四〇 三月三日 在桑港矢田總領事ヨリ

内田外務大臣宛（電報）

東洋ニ於テ米國労働者ノ受クル取扱ノ調査ヲ

米國労働總同盟実行委員會決議ノ件

第九八号

（三月四日接受）

三月二日夕刊「コール」紙ノ同日華府發電報トシテ報スル所ニ依レハ目下同地ニ開催中ノ「アメリカン、フェデレーション」実行委員會ノ決議ニ依リ「ゴムパース」ハ在米日本人及東洋人ノ労働問題ヲ研究スル為東洋ニ於ケル米國労働者カ当國ニ於テ東洋人労働者ノ受クル制限ヨリ更ニ苛酷ナル取扱ヲ受ケ居ラザルヤ否ヤヲ調査スル筈ナリ

尚右「フェデレーション」ノ一役員ハ日本ノ土地法及移民法ハ米國ノ其レニ比シ更ニ嚴重ナル由ノ報告ニ接シ居リ日本カ米國土地法ニ対シ声ヲ大ニシテ反对スル意蓋シ其ノ理由ナキカ如シ云々ト語レリト

在米大使ヘ電報シ在「ロサンゼルス」領事ヘ郵送セリ

實ニ自制的移民制限政策ヲ採リ来レル精神ヲ全然没却スルモノナレバナリ米國ガ移民法ヲ以テ如何ニ嚴重ニ外國労働者ノ入國ヲ制限スルトモ該移民法ニシテ人種のノ差別ナク一般のニ適用セラルルモノナル以上日本人ハ之ニ対シ特ニ苦情ヲ申出ヅルコトナカルベシ然レドモ排斥法ガ特ニ差別的ニ本邦人ヲ目的トスルモノナルニ於テハ國家ノ体面ニ關スル問題トシテ我政府及國民ハ極力之ニ抗議スベキコト前述ノ通りナリ抑モ從來我政府ガ所謂紳士協約ヲ最モ忠實ニ實施シ自ラ移民ヲ制限シタル所以ハ若シ合衆國ヲシテ随意ニ日本人排斥法ヲ制定セシムルトキハ、サナキダニ加州ノ排日運動等ニ激發セラレタル日本國民ノ感情ヲ刺激シ兩國間ノ外交ヲ困難ニ導ク虞アリシヲ以テナリ日本政府ハ此点ヲ顧念シタルガ故ニ一九一一年現行日米通商航海條約改訂ノ際ニモ所謂紳士協約ヲ將來有効ニ維持スヘキコトヲ宣言シ其代リ條約上ニ於テハ米國力任意ニ日本ノ移民ヲ制限シ得ザル旨ノ規定（現行日米條約第一條所謂往來自由ニ關スル規定参照）ヲ設ケタリ右ノ成行ヲ無視シ米國ガ日本人排斥法ヲ制定シタルトセバ之レ日米條約違反ナルノミナラズ忠實ニ紳士協約

五 米國ニ於ケル排日關係雜件 二四一

二四一 三月十日 赤松外務省通商局第三課長ヨリ

浪沢事務所小畑久五郎宛

日米移民問題ニ關スル英文質問書ニ対スル回

答案送付ノ件

附屬書 右回答案

附記 二月二十二日附浪沢事務所ヨリ赤松通商局第

三課長宛書信

拜復過日御申越ノ日米移民問題ニ關スル英文質問書ニ対シ大要別紙回答案ノ如キ意味ニテ御回答相成候テハ如何ニ候哉尚本問題ニ關スル印刷物六部同時及送付置候間御回答ニ添ヘテ先方ヘ御送付相成候様致度右御返事迄如此ニ候

（附屬書）

敬具

回答案

一米國力支那人ト同一基準ノ日本人排斥法ヲ制定スルコトアラバ日本國民ノ憤激ハ極度ニ達スヘシ何トナレバ斯卡ル立法ハ日本國ノ体面ヲ傷ケ今日迄日本ガ米國ニ対シ誠

ヲ維持セル日本政府ニ対スル背信行為ナリ

二所謂紳士協約トハ右帝國政府ノ移民自制的制限措置ヲ形容シテ呼ビ慣ラサレタルモノニシテ帝國政府ハ最初ヨリ今日迄始終一貫旅券ニ依リ渡米者ノ制限取締ヲ実行シ労働者ニ付テハ再渡航者在米者ノ父母妻子ヲ除ク外一切旅券ヲ發給セズ又商人学生漫遊者等労働者ノ階級ニ屬セザル者ニ対シテモ嚴重ニ其經歷資力等ヲ調査シ苟クモ渡米後労働ニ從事スル疑アルモノニ対シテハ之レ亦旅券ヲ發給セズ斯ノ如ク紳士協約ハ從來最モ有効ニ移民制限ノ實効ヲ收メタリ將來ト雖モ兩國間移民問題ノ解決策トシテハ是以上有効ニシテ賢明ナル方策ナキコトハ実狀ヲ知ル者ノ等シク認ムル所ナリ從來排日論者等カ屢々紳士協約ノ失敗ヲ揚言スルヲ耳ニシタルコトアルモ之レ事實ヲ曲クルモノニ非ザレバ知ラザルモノナリ今紳士協約ニ対スル攻撃ノ一二ヲ例示セバ

（一）支那人排斥法ハ有効ニシテ在米支那人ノ數ハ為メニ減少シタルモ紳士協約ハ無効ニシテ之アルニ不拘在米日本人ノ數ハ却テ増加セリト謂フ者アリ此ノ如キ所言ハ支那人排斥法ト紳士協約トカ全然同一ノ内容ヲ有スルコトヲ

二六三

前提トスルモノナルモ兩者ノ内容ハ同一ニ非ズ支那人排斥法ハ親ハ勿論妻子ノ呼寄モ許サザルモノナルモ紳士協約ハ親ノ呼寄モ妻子ノ呼寄モ自由ナリ在米日本人ノ増加スルハ当然ナリ

(二)写真結婚ノ婦人ノ渡航ヲ以テ紳士協約違反ナリトシテ日本政府ノ不信ヲ云々スル者アレドモ写真結婚ノ妻ヲ他ノ方法ニ依リ結婚シタル妻ト同様之ヲ米國ニ呼寄せ得ルコトハ日米兩國政府間ノ明瞭ナル了解アリ

(三)從來墨國々境ヨリ米國內ニ密入シタル者アリ又船員ノ脱船シテ密入國ヲ為シタル者アリ或論者ハ之ヲ以テ恰モ紳士協約違反ノ如ク謂フモ日本政府ハ如何ニシテ脱船乃至密入國ヲ有効ニ防止シ得ルヤ此ノ如キハ米國移民局ノ任務ナリ然レドモ日本政府ハ其力ノ及ブ限り之ヲ予防スル為米國行船舶ノ本邦出帆ニ當リテハ十数名ノ警察官ヲ派シテ嚴重ニ船内ヲ検査シ又墨國行旅券發給ノ數ヲ最少限度ニ制限セリ(墨國行旅券發給數ハ一年百名内外ニ不過只千九百十八年度ニ於テハ二百十五名ニ達セリ)三日本ハ米國ノ意ニ反シ同國ニ移民ヲ送ラントスルノ意思毫モナシ從テ在來ノ移民自制的制限政策ハ將來モ最モ有

効ニ之ヲ維持シテ渝ルコトナキノミナラズ紳士協約ヲ改訂シテ幾分嚴重ニスルコトモ必ズシモ辞セザルベシ現ニ昨年写真結婚婦人ノ渡米ニ對スル米國民ノ反對強烈トナリ來レルヤ是等婦人ノ渡米ハ紳士協約上ニ於テハ当然主張シ得ルモノナルニ拘ラズ自ラ進ンデ之ヲ禁止シ同問題ノ為兩國間ニ不愉快ナル紛擾ヲ來サザラシムルニ勉メタリ

然レドモ米國側ニ於テ日本國ノ体面ト日本ノ米國ニ對スル誠意ヲ顧慮スルコトナク日本人ヲ目的トスル差別的排斥立法ヲナス如キコトアラバ日本國民ハ飽ク迄之ニ反對セザルベカラズ彼ノ加州ニ於ケル土地法ノ制定ニ對シ日本人ガ極力反對スル所以モ亦加州カ已ニ適法ニ入國シ生業ニ従事スル在留邦人ニ差別的待遇ヲ与フル点ニ存ス若シ加州ガ總テノ外國人ニ一様ニ土地ノ所有權ヲ禁ズルナラバ日本ハ之ニ對シ何等異議ヲ唱フルモノニ非ズ要スルニ米國ニ對シ日本ノ主張スル主眼点ハ米國ヲシテ日本人ヲ公平ニ待遇セシメントスルニアリ米國ガ日本人ニ對シ不公平ニシテ劣等ナル待遇ヲ与フル間日本人ハ抗議ヲ繼續スヘシ

四移民問題ニ關スル印刷物中有合セノモノ左記ノ通り參考迄ニ贈呈ス

1. Japanese Immigration and the Japanese in California.  
1. Statistics Relative to Japanese Immigration and the Japanese in California.

1. Facts, not Fiction.

1. Friendship between U.S. and Japan.

1. Waving the Yellow Flag in California.

1. Mr. Vanderlip's message.

註 英文質問書ニ付テハ左掲附記ノ別紙參看

(附記)

二月二十二日附洪沢(栄一)事務所ヨリ赤松外務省通商局第三課長宛書信

日米移民問題ニ關スル英文質問書ニ對スル回答振ニ付伺出ノ件

拝啓益々御清祥奉賀候然れば甚た唐突の儀に御座候へ共貴下の御高示を仰ぎ申度事情相起り候に付乍略儀書面を以て申上ぐる次第に御座候

別紙封入の英文質問書は御閲読被下候はば直ちに御了りの

事と存申候但し之に對して回答を作成致す時に事外交に關し申候故輕卒に取り扱ふべき事柄にあらずと考へ増田秘書にも相計り終に貴下の御援助を待つゝの最も安全なる方法なりとの点に一致したる次第に御座候就ては御多忙中甚た恐縮に存候へ共可然御取り計らいの上御回答被下候はば真に幸甚と致す次第に御座候。小生は御回答を參考資料として草案を作り之を子爵閣下に呈し、訂正を待つて後之を英文に綴り先方へ送り度き希望に御座候

敬具

日本橋区兜町二番地洪沢事務所

小畑 久五郎

拝

大正十年二月二十二日

赤松第三課長殿

(別紙)

一月二十四日附サットレー氏ヨリ洪沢子爵宛質問書

Sapporo, Hokkaido

January 24th. 1921.

Viscount Shibusawa

Tokyo, Japan

Dear Sir:

I am preparing a statement to send to America, for public use there, the Japanese view of restriction or prohibition of immigration and anti-land owning legislation. Your name has been referred to me as one who is acquainted with this subject and who can give an authoritative opinion. Will you please do so?

May I ask some specific questions? What would be the reaction in Japan to a law excluding the Japanese on the same basis as the Chinese? How do the Japanese consider the so-called "Gentleman's Agreement"? Does it work?

What remedy do the Japanese propose to the present difficulty?

Do they feel that they ought to have unrestricted immigration, or do they concede the right of the United States, to limit immigration as it sees

fit? Do they favor a continuation of the present methods, or have they something to offer?

An answer to these questions, and any other information you may be able to give will be very much appreciated, and I assure you will be used only in the interest of good relationships. Also any book or magazine, published in English, that you know gives the information will you please give me the title?

Again thanking you, I am,

Yours very truly,

(Signed) Melvin L. Sutley

二四二 六月二十七日

在桑港矢田総領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

合衆國ノ國勢調査ニ依ル加州在留日本人口

ト實際人口トノ相異ガ問題トナリタル件

第二六二号

(六月二十八日接受)

今般發表セラレタル合衆國「センサス」(千九百二十年度)中加州在留日本人口七万一千九百五十二トアルニ對

二四三 六月二十七日

在桑港矢田総領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

加州在留日本人口ト實際人口トノ相異ニ関

スル事情調査ヲ米國側実行ノ件

第二六三号

(六月二十八日接受)

往電第二六二号ニ関シ

六月二十五日「サクラメント」發新聞電報ニ依レハ「チャムバース」ハ「ジョンソン」ヨリ三万八千人ノ加州日本人カ合衆國「センサス」ヲ潜リタル事件ニ関シ事情調査方実行セラルヘシ云々トノ回電ニ接シタル趣ナリ

二四四 七月十九日

内田外務大臣ヨリ  
在桑港矢田総領事宛(電報)

リヴィングストンニ於テ本邦人追放ノ真相査

報方訓令ノ件

第七二号

十四日貴地發新聞電報ニ依レハ「リヴィングストン」ニ於テ二十九名ノ本邦人ハ米人ノ為強制的ニ同地ヲ追放セラレタル趣ナル処右事実ノ真相御取調回電アリタシ

二四五 七月二十一日

在桑港矢田總領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

リヴィングストンニ於ケル日本人追放ノ狀況  
報告ノ件

第二七〇号

(七月二十二日接受)

貴電第七二号ニ関シ

目下取調中ノ処今日迄ニ得タル情報ニ依レバ「リヴィングストン」ヨリ西方約六哩ニ当ル無花果畑所有米人ハ約十一名ノ「スタクトン」在住日本人ヲ雇入レタルガ十三日午后其就業中三台ノ自動車ニ分乗セル数名ノ覆面セル白人来リ速ニ同地ヲ立去ランコトヲ要求セルモ該日本人等ハ雇主タル米人不在ナレバ如何共ナシ難シトテ断ハリタリ然ルニ同日夜半ニ至リ覆面ノ白人団約十一台ノ自動車ニテ来襲シ前記十一名ノ日本人ヲ車ニ載セ「リヴィングストン」ヨリ同夜午前二時汽車ニテ「スタクトン」ニ送り返シタルガ其ノ間日本人ハ何等抵抗スルコトナク彼等ノ為スガ儘ニ委セタリトノコトニシテ当方ヨリ直ニ「スタクトン」日本人会ニ照会セルモ關係日本人ヨリ何等申出ナキ趣ニ付重ネテ当人等ニ付事情取調方依頼シ置ケリ

十九日夜半白人労働者ノ一団ニ襲撃セラレ「モータートラック」ニ載セラレ強制的ニ同地方ヨリ放逐セラレタルガ日本人ハ何等抵抗スルコトナク其暴行ニ委セタリ其ノ原因ハ最近同地方瓜畑地主ト労働者トノ間ニ賃銀上ノ争アリ労働団体ヨリ地主ニ対シ爭議中ナリシガ日本人労働者ハ白人労働団体ノ要求額ヨリ低廉ナル賃銀ニテ就業スルニ至リタルヲ以テ白人労働者ハ憤激シ右暴行ニ出ヅルニ至レルモノナリ云々ト報ジ居リ「ブレチン」ノ如キハ Jap War in Turlock 云々ト赤字ニテ「ヘッドライン」ヲ設ケ挑発的記事ヲ掲ゲ居レル処置ニ「ターラック」日本人会ニ電話ニテ照会セルニ右記事ハ大体事実ナル趣ナルガ其ノ事件ノ性質ハ拙電第二七〇号「リヴィングストン」事件ト同一ニシテ目下瓜類果物ノ採取期ニシテ多数日本人ノ同地方一帯ニ入込ミツツアル時期ナルニ依リ同様ノ事件他地方ニモ伝播セザルヤモ保シ難キニ付不取敢加州知事ノ注意ヲ喚起スル為別電第二七二号ノ通り電報ヲ送ルト共ニ直接当館員ヲ派遣スルコトハ事態ヲ拡大スル虞アルヲ以テ差当リ在米日会ヨリ本日午後四時当地発汽車ニテ「ターラック」及「リヴィングストン」方面ニ役員ヲ急行セシメ事情取調ヲ為スト同時

五 米國ニ於ケル排日關係雜件 二四七

從來同地方ハ南欧ノ下等ノ移民多数ニ存住シ排日風潮比較的盛ニシテ No more Japanese supply. This is a country for White. ノ意味ノ立札アリ同地方労働団体ハ最近日本労働者排斥ノ決議ヲナセル矢先前記日本人ガ白人ヨリ低廉ナル賃銀ニ依リ雇ハレ来リタル為邦人ノ侵入ヲ恐れ右ノ如キ暴行ニ出デタルモノト察セラル而シテ右処為ニ関シ American Legion 又ハ排日協會等ノ団体ニ於テ何等後援ヲナシツツアリヤニ付テハ未ダ確証ヲ得ズ又「リヴィングストン」方面ノ有力ナル米人ハ本件ヲ甚タ不愉快ナル事件トシテ日本人ニ同情シ居レル趣ナリ

華府「ロス・アンゼルス」ヘ電報セリ

二四六 七月二十一日

在桑港矢田總領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

ターラック地方日本人労働者放逐事件ニ関シ  
加州知事ノ注意喚起ノ電報ヲ発スルト共ニ  
会役員ヲ派遣シ真相取調中ノ旨報告ノ件

第二七一号

(七月二十二日接受)

七月二十日当地夕刊紙ノ報ズル所ニ依レバ「スタニスラウス」郡「ターラック」地方農園ニ就業中ノ日本人五八名ハ

ニ同地方官憲ト協議セシムルコトトセリ尚右事件ニ関連シ「ターラック」日本人会「キャンタロップ」組合等会合ノ上善後策ヲ協議中ナルモ本件ニ関シテハ真相取調ノ上ハ米國官憲ニ在留民保護ヲ請求スル等当方ニ於テ何等表面的処置ニ出ヅルヲ要スベク事宜ニ依リテハ米國官憲ニ抗議スルコトヲ必要トスルニ至ル可シト存ゼラルル処目下ノ時節柄大局ヨリ考察シ本件処置上本官ノ心得ベキコトアラバ何分ノ儀至急御電訓相仰ギタシ

華府及「ロス・アンゼルス」ヘ電報セリ

註 別電省略

二四七 七月二十二日

在ロス・アンゼルス大山領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

羅府司法省情報局員ガターラック事件類似ノ  
事件発生ニ付各方面ニ警戒中ノ旨内話ノ件

第九六号

(七月二十三日接受)

「ターラック」事件ニ関シ当地司法省情報局員ノ語ル所ニ拠レハ同局ハ「ラ」府方面ニ於テ同一事件発生ノ徴候ナキヤ否ヤ精細ナル調査並警戒方ニ付中央政府ヨリ極メテ嚴重ナル訓令ヲ受ケタルガ取調ノ結果当方面ニハ未ダ何等特殊

二六九

ノ徴候ヲ認メザルモ各方面ニ対シ警戒シツツアリ尚本件ハ在郷軍人等ト何等関係ナキ如クナルモ目下全国各地ニ殆ンド無数ナル在郷軍人ノ団体アリ羅府ノミニテモ其ノ数約四十二達スルノミナラズ彼等ハ多ク狹隘ナル愛国心ニ捉ヘラレ動モスレバ外国人排斥ヲ以テ愛国的行動ナルカ如ク誤解シ居レバ其ノ行動ハ余程警戒ヲ要スル旨其ノ筋ニ報告セル旨内話セリ

在米大使及在桑港総領事へ電報セリ

二四八 七月二十三日

在桑港矢田総領事ヨリ  
内田外務大臣宛

ターラック事件ニ関シ加州知事ニ与ヘタル公

文書写送附ノ件

附屬書

七月二十三日附矢田総領事ヨリ在米幣原大使宛  
機密華第五一号信写

機密公第四二号

大正十年七月二十三日

在桑港

総領事 矢田 七太郎 (印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

Sacramento, California.

Dear Sir:—

Confirmation is hereby made of my telegram to you of the 20th instant reading as follows:—

“The attention of this Consulate General has been directed to the alleged fact that acts of lawlessness were committed at Livingston, Merced County, this state, on the 13th instant and at Turlock, Stanislaus County, on the nineteenth instant, whereby subjects of Japan were subjected to mob violence and ejected from their peaceful and legal occupations.

I respectfully urge an immediate investigation by the proper state authorities and ask that the results of such inquiries be communicated to this Consulate.”

Notice has been taken, in the meantime of the various steps which, according to newspaper reports, are being taken by the federal, state and local authorities to investigate the illegal acts committed,

大正十年七月二十三日付在米大使宛機密華第五一号信写送付

(附屬書)

機密華第五一号

大正十年七月二十三日

在桑港

総領事 矢田 七太郎

在米

特命全權大使男爵 幣原 喜重郎殿

「ターラック」事件ニ関シ加州知事ニ送付セル

公文書写送附ノ件

拙電第二三五号所報「ターラック」事件ニ関シ加州知事ニ送附セル書面写別紙ノ通り及御送附候 敬 具

(別 紙)

七月二十二日附矢田総領事ヨリ加州知事スチヴンス宛公文写

July 22nd, 1921.

Hon. William D. Stephens,

Governor of California,

and this office is gratified to note the very general disposition in all quarters to condemn the lawlessness and bring the guilty parties to justice.

It is the hope of this Consulate that the measures taken will prove effectual to prevent any recurrence of irregularities and that the interested authorities in question will find it possible to fully protect Japanese subjects in this state in the exercise of their clearly defined treaty rights.

Very respectfully yours,

(Signed) S. Yada

Consul General of Japan.

二四九 七月二十三日

在桑港矢田総領事ヨリ  
内田外務大臣宛 (電報)

日本人労働者追放ニ関シターラック出張ノ日

会役員ヨリ報告ノ件

第二七三号

(七月二十四日接受)

拙電第二七一号ニ関シ「ターラック」ニ出張シタル在米日会役員ヨリノ電話報告左ノ通り

(二十一) 日午前十一時

一、(イ) 二十日午前二時「ターラック」市内イワタ商店ニ働  
口ヲ求メ来タル多数日本労働者宿泊中約百五十名ノ白  
人労働者等蝸集シ戸ヲ開カンコトヲ要求シ同商店ハ夜中  
ノコトトテ之ヲ拒絕セシガ何等暴行ヲ加ヘザルベキコト  
ヲ約シタルヲ以テ戸ヲ開キタルニ先ズ二尺計リノ棍棒又  
ハ鉄棒ヲ携ヘタル数名ノ労働者闖入シ引続キ多数ノ労働  
者入込ミ宿泊中ノ十八名ノ日本労働者ニ対シ同地ノ退去  
ヲ強要シ有無ヲ云ハサズ分乗シ来リタル「トラック」数  
台ニ乗セ「ターラック」ヨリ四五哩ヲ隔ツル「キース」  
ニ至リ同地停車場及ビ日本人「キャンブ」ノ近傍ニ放チ  
其儘引揚ゲタルガ其間白人労働者団ハイワタ商店及ビ日  
本労働者ニ対シ別ニ危害ヲ加ヘズ又日本人モ何等抵抗ス  
ルコト無ク白人ノ為スガ儘ニ任セ居リタリ  
(ロ) 右イワタ商店ヲ襲ヒタル労働者ト同一団体ト認メラ  
ル労働者ハ其後再び「ターラック」市内日本人「ホー  
ル」ニ宿泊中ノ二十名ノ日本人労働者ヲ襲ヒ前記同様ノ  
手段ニ依リ「キース」迄輸送シタル後更ニ其中五六十名  
ノ白人労働者ハ

目下ハ一般ニ安堵ノ模様ナリ

在米大使紐育「シアトル」「ロス・アンゼルス」ヘ電報セリ

二五〇 七月二十三日

在桑港矢田総領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

ターラック及リヴィングストン事件ニ関シ加  
州知事等ノ意見トシテ伝ヘラレタル新聞報  
告ノ件

第二七四号

(七月二十四日接受)

拙電第二七一号ニ関シ

「スチーヴンス」知事ヨリ当方ニハ未タ回答ナキモ二十一  
日羅府發電報トシテ新聞ニ伝ヘラルル所ニ拠レハ同地滞在  
中ノ知事ハ本件ニ関連シ『加州ハ目下帰化権ナキ一切ノ外  
国人ヲ米国内ヨリ完全ニ根絶スルカ為メ全米の運動ノ指導  
者トナリ居ルモノニシテ該運動ハ着々進行中ナルガ今回ノ  
「ターラック」並「リヴィングストン」事件ノ如キハ吾人  
ノ目的ニ多大ノ障碍ヲ来スモノナリ而シテ既ニ「マーセッ  
ド」及「スタニスラウス」郡官憲ニ詳細調査方ヲ命シ置キ  
タルガ自分ハ法規並条約上ノ責任ノ厳守セラルベキコトヲ  
要求スルモノニシテ日本人ノ道德上法律上ノ權利ハ充分保

五 米因ニ於ケル排日關係雜件 二五〇 二五一

(イ) 「ターラック」市外約一哩半乃至二哩半ノ地点ニ散在  
スル三軒ノ日本人「キャンブ」トミエド山口及ビ加藤方  
ヲ襲撃シ宿泊中ノ日本労働者トミエド方ヨリ八名山口及  
ビ加藤方ヨリ各六名宛ヲ「トラック」ニ分乗セシメ是亦  
「キース」マデ輸送シ去リタリ

二、右暴行ノ原因ニ就テハ調査中ナルモ主トシテ賃銀爭議  
ニ存スルモノノ如ク目下同地方ニハ果物採取ニ従事スル  
為多数ノ移轉的労働者集マリ居リ其団体タル「フルー  
ト、パッカー、ユニオン」ハ数日前農園主ノ団体タル  
同地商業會議所ニ対シ賃銀値上及ビ日本労働者排斥ヲ要  
求シテ會議所ノ拒絕ヲ受ケ交渉中絶ノ処日本人労働者ハ  
白人ヨリ低廉ナル賃銀ニテ従事シタリト伝ハリ突然前記  
ノ襲撃ヲ為スニ至レルモノト想像セラル而シテ日本人ハ  
一箱十八仙以上二十仙内外ニテ従事シ白人ハ二十二仙乃  
至二十五仙ノ賃銀ヲ要求シ居リタルモノナリト云フ本件  
突発ノ為同地方日本人ノ人心ハ自然平調ヲ失シ殊ニ二十  
日夜ハ再び労働者ノ来襲アルベシトノ評サヘ伝ハリタル  
程ニテ一時不安ノ念ニ襲ハレタリシガ同夜「モデスト」  
ヨリ約十名ノ特務警官特派セラレ嚴重警戒ヲ加ヘタル為

護セラルベキモノナリ」トノ意見ヲ發表セル趣ニシテ又羅  
府合衆國裁判所檢事「オッコナー」ハ本件ハ日米条約違反  
ノ所為ト思考セラルルヲ以テ直チニ同地ヨリ司法官憲ヲ差  
遣ハスベシト發表セル由  
又当地司法官憲ノ言フ所ニ依レバ二十日代表ヲ差遣ハシ犯  
罪探查ニ取掛レリトノ由ナルガ二十一日「ターラック」發  
新聞電報ニ依レハ既ニ同日朝暴行嫌疑者トシテ労働団体ノ  
一首領ヲ逮捕セル由又目下「ターラック」方面ニ於テハ警  
察官吏市中ヲ巡邏シ警戒中ナルモ市中一帯ニ静隱ニシテ何  
等排日示威運動ヲ認メザル趣ナリ

在米大使並羅府ヘ電報セリ

二五一 七月二十三日

在桑港矢田総領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

ターラック事件ニ関シ同地出張中ノ在米日會  
役員ヨリ統報ノ件

第二七五号

(七月二十四日接受)

往電第二七三号ニ関シ  
「ターラック」出張中ノ在米日會役員ヨリノ電話報告左ノ  
通り(二十二日午後一時)

五 米國ニ於ケル排日關係雜件 二五二

昨夜來襲ヲ懸念スル者アリタルモ警察ノ警戒嚴重ニシテ事ナキヲ得タリ目下一般平穩ナリ輸送セラレタル日本労働者ハ拘禁ヲ怖レ「ターラック」ニ歸來セザルモ其他ノ日本労働者ハ同地方ニ止マリ仕事ニ従事シ居レリ警察側ハ目下犯人嚴探中ニテ曩ニ逮捕セラレタルモノノ外更ニ二人ノ嫌疑者拘引セラレタル由尙「モデスト」警察署長及桑港合衆國司法省出張員ト面会シタルニ犯人ハ続々檢舉スル筈ニテ刑法上処罰スヘキ十分ノ証拠アリ又今後斯ル事態ノ起ラザル様十分警戒中ナリト語レリ

在米大使及在「ロス・アンゼルス」領事ヘ電報セリ

二五二 七月二十三日 在桑港矢田総領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

ターラックニ於ケル日本人ニ対スル暴行ヲ非難セル排日協会及ジョンソン上院議員ノ声明  
等報告ノ件

第二七六号 (七月二十四日接受)

往電第二七五号ニ関シ

(一)排日協会ハ会長「インマン」及実行委員長「チャンバース」ノ名義ニテ二十一日長文ノ「ステートメント」ヲ發セ

二七四

リ其ノ要旨ニ曰ク吾人ハ「ターラック」ニ於ケル暴行ヲ非難スルモノナリ想フニ從來日本人ハ加州法ヲ潜リツツアリタルニ拘ラズ当國法ニ於テハ曾テ日本人ノ法律上ノ權利ヲ侵害スルノ行為ニ出デタルコトナカリシハ加州ノ誇トスル所ナリシナリ然ルニ今次ノ事件ハ啻ニ日本人ニ対シ不公正ナルノミナラズ吾人ノ排日政策ニ障礙ヲ与ヘ殊ニ東部ニ於ケル我が宣伝運動ニ付誤解ヲ招致スル虞アリ吾人ハ斯ル暴行事件ノ再發ヲ防止スルタメ有ユル手段ヲ尽スベシ云々

(二)二十一日上院議員「ジョンソン」ハ「サクラメント、ビー」ヲ通ジ「ステートメント」ヲ發シ從來加州問題タリシ日本人問題ハ目下全米國ノ問題トナリタルヲ以テ西部諸州ハ一斉ニ一致ノ行動ヲ取りツツアルガ此ノ窮迫セル重大問題ニ対シ加州人が常ニ公正隱忍ノ態度ヲ持シ來リタルハ吾人ノ誇トスルトコロナリ然ルニ若シ此ノ態度ヲ失ハンカ之甚ダ遺憾ノ事ナリ蓋シ我が領域内ニアル日本人ハ其ノ生命財産ノ保護ヲ受クベキ充分ノ權利アレバナリ云々トテ大體前記排日協会「ステートメント」ト同意ヲ縷述セリ  
(三)尙本官ハ米國新聞紙ニ対シ「ターラック」附近ニ於テ約五十名ノ日本臣民ガ労働者ヨリ成ル一団ノ群集ノタメ暴行

シテ然ラバ吾人ハ彼等ヨリモ寧ロ日本人ヲ採ルモノナリ云々ト社説ヲ掲ゲ居レリ

大使羅府ヘ電報セリ

二五三 七月二十四日 在桑港矢田総領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

ターラック事件被害者ノ保護ヲ地方司法官憲ニ求ムル様措置方  
在米大使ノ指示アリタル件

第二七七号 (七月二十五日接受)

本官宛在米大使發第一四一号

大臣宛貴電第一七〇号及第二七一号ニ関シ本事件ハ先ヅ被害者ヲシテ地方司法官憲ノ保護ヲ求ムル様御措置アリタク若シ司法官憲ニ於テ適當ナル措置ヲ採ラザル事實アラバ報告アリタク其ノ上ハ直チニ中央政府ニ交渉スルコトトス可シ

大臣「ロス・アンゼルス」領事ニ転電アリタシ

二五四 七月二十四日 在桑港矢田総領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

ターラック事件ニ関シ米國官憲ノ誠意アル態度ニ鑑ミ暫ク米國側ノ措置振ヲ監視スルニ止

メ度旨幣原大使宛回電ノ件

第二七八号

(七月二十五日接受)

在米大使宛第二三五号

貴電第一四一号ニ関シ二十三日帰桑セル日会役員ノ報告及其ノ他ノ方面ヨリ入手セル情報ヲ総合スルニ米国官憲ハ事件勃発後直ニ責任者タル二名ノ警官ヲ罷免シ更ニ二十五名ノ警官ヲ増派シテ警戒ヲ加ヘ将来ノ再発ヲ防止スルト同時に犯人逮捕ニ著手シ二十三日ノ新聞電報ハ既ニ九名ノ嫌疑者ヲ捕縛セラレタル旨ヲ報シ其他当地駐在ノ合衆国司法官ノ現場ニ出張シテ州司法官ヲ援助スルアリ今日迄ノ所ニテハ米国官憲ハ誠意ヲ以テ本邦人ノ保護及犯人ノ処罰ヲ為サントシツツアルモノト認メザルヲ得ザルベク又一方被害者及当該地方在留日本人ハ米国官憲ニ信頼シ寧ろ穩便ニ地方的ニ解決シタキ希望ノ由ニテモアリ又当該地方一般日本人モ事ノ真相漸次判明シ本件ニ対スル米国側ノ態度明瞭トナルヤ平靜ニ帰リタル現状ニテモアリ旁々本件ハ姑ラク米国側ノ措置振リ監視スルニ止メ其ノ内州知事ヨリ本官ノ公文(往電第二三〇号知事宛電報ヲ「コンファーム」スルト同時ニ将来類似事件ノ發生防止方二十二日用意セルモノ本文

第七四号(至急)

貴電第二七〇号及第二七一号ニ関シ貴官ハ不取敢加州知事ニ対シ事件ノ調査ト共ニ更ニ進テ苟クモ斯ル事実ノ存スルニ於テハ在留邦人ノ權利及自由ノ侵害ニ対スル保護救済上迅速適當ノ手段ヲ採ルト同時ニ向後斯ル事件ノ再発セザル様周到ナル措置ヲ講セラレンコトヲ希望スル旨申入レラレ度シ尚貴電ニ依レハ本件ハ純然タル賃銀上ノ争ニ原因スル如クナルモ時節柄万一他ニ利用セラルル如キコトアリテハ兩國々交上最モ憂フヘキ結果ヲ齎ラス虞アルニ付貴官ハ本件処理上特ニ周密ナル注意ヲ払ハレ一般在留民ニ対シテモ徒ラニ輕拳暴動シ他ノ乗スル所トナル如キコトナキ様充分戒告指導セラレ度シ右御如才モナキ儀ナガラ為念  
本電在米大使及「ロス・アンゼルス」へ転電アレ

二五七 七月二十五日

在桑港矢田総領事ヨリ  
内田外務大臣宛

リヴィングストンニ於ケル日本人放逐事件ニ

関シ詳細ノ件

附屬書 七月二十日附仲喜代治ヨリ在米日本人会宛報

告写

五 米国ニ於ケル排日關係雜件 二五七

写郵送ス)ニ対シ回答アルヘク夫迄ニ米国側ニ別ニ手落ナクハ其際重ネテ警告シ置クコトニ致シタシト思考ス御意見アラハ至急御回示ヲ請フ

大臣ニ電報シ「ロス・アンゼルス」へ郵送ス

二五五 七月二十五日

内田外務大臣ヨリ  
在米國幣原大使宛(電報)

リヴィングストン及ターラック事件ニ関シ米

國政府ニ邦人保護方申入レラレ度旨訓令ノ件

第三一〇号(至急)

在桑港總領事發本大臣宛來電第二七〇号及第二七一号ニ関シ貴官ハ此際不取敢右報道ニ関シ米國政府ノ深甚ナル注意ヲ喚起シ在留邦人ノ保護ニ関シ迅速周到ナル措置ヲ講ゼラレンコトヲ希望スル旨申入レラレ度シ  
右桑港及「ロス・アンゼルス」へ転電アレ

二五六 七月二十五日

内田外務大臣ヨリ  
在桑港矢田總領事宛(電報)

リヴィングストン及ターラック事件ニ関シ加

州知事ニ邦人保護ノ為周到ナル措置ヲ講ゼラ

レ度旨申入方訓令ノ件

機密公第四三号

(八月二十三日接受)

在桑港

總領事 矢田 七太郎(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

リヴィングストンニ於ケル日本人放逐事件ニ関シ

報告ノ件

拙電第二七〇号ニ関シ「リヴィングストン」有力者仲喜代治提出報告写及御送附置候間委曲右ニテ御承知相成度此段申進候 敬具  
(附屬書)

七月二十日附仲喜代治ヨリ在米日本人会宛報告写  
リヴィングストンニ於ケル日本人放逐ニ関スル件

Livingston, July 20, 1291.

在米日本人会御中

拜呈七月十九日御認めノ御手紙拝見仕り候当地方に於ける

日本人逐放事件左に御答へ申上候

該事件の發生を知りしは当 Livingston の米人間にも兩三日を経たる后の事にして私共も同様の次第に候右事件發生を知るゝ同時に当地の H. A. Baker (Brass Ranch 10, 000

Acres の土地管理をなせる人にして当地には一般より信用せられ当該事件の発生せし地方の事情に精通せる人)に依頼し調査せしめし処下の如き報告を得候

K. Naka. President of Japanese Colony Ass.

Livingston, California.

(別紙)

Mr. H. A. Baker の報告

場所 リヴィングストンより西南方面に距る六哩有名な  
American Vineyard の南方

地主 Bearse Stockton.

作付 Young Fig Orchard

出来事 去る十一日 Friday に七名の男と女一名小供二名の日本人が Stockton より来り同所に於て働く事となれり農園の foreman は翌土曜日より働く事を命じ自分は同夜スタクトンに行き月曜日に帰るべく日本人に告げたり土曜日の午後右日本人が就働せる処へ三台の自動車にて一団の白人が来り其内幾名かが顔に mask ヲ覆ひ該日本人に立退きを迫り其言には “No Japs wanted here, this is Country for White” と在りし

所罰せしむるがよろしからんと

右加害者は明かならざるも Stevenson district の young men の仕事らしく同地方には純米人よりも南欧民の系統のもの多く排日かぶれをいたし居り同地区域の Farm Center は猛烈なる排日気分の在る処に有之候 (以上)

二五八 七月二十八日 在桑港矢田総領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

桑港商業会議所ハターラック米人暴行ニ対シ  
官憲取締要望ノ決議ヲ為セル旨並同趣旨ヲ国  
務省ニ電報セル旨日本政府ニ伝達方申出ノ件

別 電 同日在桑港矢田総領事発内田外務大臣宛電報第  
二八二号

桑港商業会議所ヨリ國務省宛電報写

第二八一号 (七月二十九日接受)

拙電第二七八号ニ関シ

二十七日当地商業会議所ハ会頭「アレキサンダー」ノ名ヲ以テ本官ニ対シ「ターラック」米人暴行事件ニ関シ同所ハ該暴行ヲ非難シ且ツ官憲ノ嚴重ナル取締ヲ要求スル旨ノ決

五 米国ニ於ケル排日関係雑件 二五八

が如く右日本人の内英語の出来る一日本人は “我等は地主の依頼に依りて来れる者なれば若し我等の存在を好まぬとあれば Monday 当農園の foreman の帰るを待ち其上談判すべし” と答へしが之には彼白人も返す辞もなかりしものの如く其儘立ち去りたり

同夜十時頃多数の自動車再び同キャンプに押寄せ来り(多分十台位在りしとの事なり)今回は強制的に退去を迫り同農園にありし Ford truck に右日本人全部と baggages を積み Livingston S. P. Depot に連れ来り午前二時当地通過の客車に (Flag train) 日本人を乗せ再び来らざる様警告し手荷物は日曜日朝八時の train にて Stockton に発送せし由に候此出来事は当地の人々には全く不知の事にて其后新聞紙に記載により始めて知り得たる次第に候十四日の夕刊 Mered Sun に右記事出で同夜当地の Board of Trade の monthly meeting に於て小弟も之を聞き当地の Livingston Chronicle は翌日の同紙に封入の記入を掲げ候次第同農園の foreman 及び当地の思慮ある米人は右日本人の権利を主張する為には之を官憲に訴へ其責任者を

議ヲ通過シ同時ニ國務省ニ対シ右同様ノ意味ノ電報(別電第二八二号)ヲ送り置キタルガ右ハ加州ニ於テ個人タルト将又団体タルトヲ問ハズ苟クモ法ヲ尊重スルモノノ総テノ意思ヲ代表スルモノナルコトヲ信ズル旨ヲ以テ右帝國政府ヘ伝達方申出デタリ

在米大使ヘ転電シ在「ロス・アンゼルス」領事ヘ郵送セリ  
(別電)

七月二十八日在桑港矢田総領事発内田外務大臣宛電報第二八  
二号  
ターラック米人ニ関シ桑港商業会議所ヨリ國務省宛電報写  
第二八二号

The San Francisco Chamber of Commerce has passed strong resolutions condemning the illegal and high-handed action of the mob in Turlock deporting Japanese legally resident there. We believe that this action is one of an irresponsible group and believe that a thorough investigation should be made of the entire incident. Authorities have taken aggressive action in apprehending perpetrators and the

public sentiment of the entire state is against any such proceeding. We trust that this incident will be so thoroughly disavowed and discredited that the Japanese Government and people will understand that it does not represent the spirit of the State of California.

Yada

二五九 七月三十日 在米國幣原大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

ターラック事件ニ関シ中央ニ対スル公然ノ措  
置ヲ見合セ度旨意見具申並極東部長ニ対シ日  
本人保護ニ留意方希望シ置ケル旨報告ノ件

第四五一号 (七月三十一日接受)

貴電第三一〇号御訓令ニ関シ

桑港總領事発本使宛第二三五号羅府領事發閣下宛第九六号  
電報ノ通り地方官憲ニ於テ犯人ノ檢挙及邦人ノ保護上誠意  
アル処置ヲ執リツツアリ又一般輿論モ斯ノ如キ事件ノ發生  
ヲ不祥事トシテ攻撃シツツアル状態ニ鑑ミ本件ハ之ヲ地方  
限リノ問題トシテ米國官憲ノ処置ニ任セ中央政府ニ対シ公

然ノ措置ヲ執ルコトハ此際之ヲ見合ハスルコト致シ度ク  
尤モ本使ハ七月二十七日國務省極東部長ニ面談ノ節本件ガ  
日本ニ於テ一般ノ注意ヲ惹キツツアル旨ヲ語リ之ニ対スル  
國務省ノ方針ヲ訊シタル処同官ハ國務省ニ於テモ本件ニ注  
意シ隨時報告ヲ徴シタルガ幸ニ今日迄ノ經過ヲ見ルニ地方  
官憲ニ於テ及ブ限リ日本人ニ満足ヲ与ヘンガ為適當ナル措  
置ヲ執リツツアルモノト認メラルルニ付國務省トシテハ暫  
ク地方官憲ノ行動ニ干渉セズ其ノ成行ヲ注視スルニ止メ来  
レリト答ヘ日本側ニ於テハ右地方官憲ノ行動ニ不満足ノ廉  
モアリヤト問ヒタルニ付本使ハ當館ニ着セル報道ニ依レバ  
地方官憲ガ差當リ適當ノ措置ヲ執リツツアルヲ認ムル旨ヲ  
答ヘ尚今後引續キ地方官憲ニ於テ日本人ノ保護ノ為充分意  
ヲ用キンコトヲ希望スル旨ヲ述べ置キタリ

桑港へ電報シ羅府へ郵報セリ

二六〇 八月一日 在桑港矢田總領事ヨリ  
内田外務大臣宛

ターラック事件ニ関スル在米日本人会ノ調査  
報告書送附ノ件

機密公第四五号 (八月二十三日接受)

大正十年八月一日

在桑港

總領事 矢田 七太郎(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

「ターラック」事件ニ関スル在米日本人会ノ調査

報告書送附ノ件

「ターラック」事件發生當時在米日本人会ヨリ同地ニ派遣  
セル「ライダー」及三苦兩人ノ調査報告書写別紙各一通御  
参考迄ニ及御送附候 敬具  
本信写送附先 在米大使

(別紙一)

七月二十三日附三苦茂氏調査報告書写

ターラック事件調査報告書

大正十年七月二十日早朝加州ターラック市に於て白人暴徒  
の一隊日本人労働者数十名を追放せし報告に接し同地に急  
行被害地を視察調査したるが被害者其他より聞き得たる事  
実を綜合して報告すれば左の如し

七月二十日午前二時頃白人暴徒の一団ターラック市内岩田  
商店を襲ふ同店にては夜半扉を叩く者あるを以て窓より視

の手段を以て同ホールに止宿中の日本人労働者二十名をキース停車場に運び去る

市内止宿中の日本人労働者追放後同暴徒の一部約五十名はターラック市より二三哩の郊外に在る日本人経営の三農園を襲ふ同暴徒は手に手に鉄棒などを携帯せし事は前と同じく先ず最初に加藤喜内氏経営の農園に至り同氏を呼び起し同所に就働中の日本人労働者を追放する旨を告げ同労働者等の就床せる小屋に案内すべきを命じ熟睡中の労働者六名を呼び起し退去の準備を為さしめ之をトラックにてキース停車場に運び退去すべきを命じ再び帰り来る事あらば絞殺すべしと脅迫して追放す尚同様の手段を以て順次山口彦市氏方農園より六名富江豊次郎氏の農園より八名の日本人労働者を追放す

追放当時家屋内に侵入せし時も又は労働者を運送中も日本人は何等の抵抗を試みざりしに因り暴徒の方にて何等日本人に対し危害を加へ又は乱暴の行為に出でざりき追放せられし日本人の一部は荷物取り纏めの為め同日一応農園に帰り来りしも再度の襲撃を恐れ悉く他に転し被害農園主は労働者の不足に困窮せり但し襲撃を受けざりし他の農園に

て自ら之に代らんと企てしにあるか如く追放せられし日本人も総て甜瓜摘採労働者のみに限られ商店及び甜瓜園経営の日本人及其家族に対しては何等の暴行に出でざりしに徴し同暴動の原因は純然たる労働問題にあるが如く其裏面に人種的偏見の伏在せし事は勿論なり

同地日本人会々長古川氏は暴動後直ちにスタニシロース郡の主都モデスト市に急行地方検事に事情を訴へ逮捕状五通を得警吏の増派を要求せし結果同日直ちに十名許りの特別警吏ターラック市に特派せられ二十日の夜は嚴重に警戒せられ再度暴徒の襲来予期せられ人心恟々たりしに拘はらず幸にも事なきを得たり尚翌二十一日には加州知事の命令により更に警吏増派せられ二十五名計りに達せり合衆国司法部より派遣せられしモース氏の臨場は州警吏の活動を監視鞭撻するに大なる効果ありしや疑なし同日暴徒の巨魁シーフ、スタールの両名及暴行当時トラックを運転せしやの疑ひあるスタグの三名逮捕拘緬せらる

帰桑の途モデスト市に立寄り官憲の態度を確かめる為め刺を通じてスタニシロース郡のシェリフ、ダラス氏を氏の事務所を訪問す合衆国司法部より特派せられしモース氏も

は其後何等の変動なし

同暴徒の一部分は移住的労働者又は放浪者にしてターラック市に移住し来りしは日本人が就働せし数日後にして前年度に比し甜瓜耕作の英加数減少せる結果甜瓜摘採に経験ある日本人にても尚働口を得るに窮し既に入市せる日本人の大部分は他に転し其一部のみ市内に止宿時機を待ちつつありし有様にて後より来りし多数の白人労働者が働口を得るに困難を感じし事は事実にて日本人農園襲撃の二三日前同市商業会議所に宛て日本人労働者を解雇し白人労働者のみを使用せよとの抗議をフルーツ、ピッカース、ユニオンの名義を以て為したれ共時期遅しとの理由を以て拒絶せられ止むを得ず最後の手段に訴へしやに察せらる尚暴挙の前日商業会議所及米国在郷軍人団支部の日本人排斥の決議は暴行の動機に非常の激励を与へしや疑なし英字新聞の記事に拠れば白人が一クレート二十五仙を要求しつつあるに日本人は十六仙にて働きつつありとあるも事實は之に反し日本人耕作者間の協定賃金は一クレート十八仙以上の規定にて現に普通二十仙内外にて日本人労働者を雇傭しつつあり故に暴動の原因は賃金問題よりも寧ろ日本人労働者を放逐し

同室に在り先ず今回の暴挙に関し尚未だ調査糺問中なるやを糺し今回の如き暴挙に関係せし暴徒を不問に附し看過する事あらば将来至る処に同様の暴行演ぜらるる事なきを保し難しと信ずるが之に対する官憲の意嚮如何を問ひしにシエリフ、ダラス氏は之に答へて今後斯くの如き暴挙の再び行はれざらんが為め官憲は出来るだけの努力を以て其檢舉に努め根本より其禍根を除く方針にて一両中には尚十名内外の嫌疑者を拘引するの運びに至れる由を告ぐ然らば之等の嫌疑者に対しては充分の証拠を有し罪に処する方針なるやを問ひしに對し然りと的確答を得辭し帰る

大正十年七月二十三日

在米日本人会法務部主任

三 荅 茂

在米日本人会御中

(別 紙 1)

七月二十五日附ライダー氏調査報告書写

Dear Mr. Takimoto:—

On Wednesday, July 20th, at the request of Mr. Kitasawa, I was very glad to go to Turlock to

investigate the kidnaping and deportation of Japanese which had occurred there early in the morning of July 20th.

The essential facts are pretty well agreed to be as follows: A mob estimated at from 150 to 200 whites, operating with military precision and discipline, roused 58 Japanese (who were working as canteloupe pickers on adjoining ranches) from their beds and put them aboard large motor trucks. In these trucks they transported them to Keyes (a little town about six miles north of Turlock) and there put them on a freight train with a warning not to return. So far as could be learned, there was no blood-shed at all, and no use of purely physical force. However, the mob was armed with clubs and probably some guns, and it is entirely conceivable that if the Japanese had made any show of opposition or resistance there would have been blood spilled. The fact that the Japanese submitted peaceably is pro-

presented by an attorney named Cook, who was said to be acting for the migratory workers and to be an official of the Legion. He also presented the petition circulated by these migratory workers and signed by the Turlock businessmen.

When I arrived in Turlock, I believe that the general sentiment was in condonement, if not in open approval of the raid. The idea seemed to be that it was a pretty smart thing to do, and that feeling was sufficiently strong throughout the state against the Japanese to approve the mob's action. The next day, however, when it became apparent that public sentiment, generally, condemned the raid and that County, State and National authorities proposed to ferret out and punish the guilty parties, the attitude of Turlock citizens suddenly changed and they began volubly to deplore the incident and to look about for convenient people to blame for its occurrence. Quite naturally they turned to the

bably what prevented Turlock becoming another Tulsa, Oklahoma. At the time of the mob's action there were temporarily domiciled in Turlock quite a number of so-called migratory fruitpickers, many of whom were said to be unemployed and who claimed that their unemployment had resulted from the employment by the canteloupe growers of Japanese to do the picking and crating. I found that these workers had circulated a petition in and about Turlock praying the growers to discharge the Japanese and employ Americans, and that this petition had been signed by from sixty-five to seventy-five Turlock businessmen, and subsequently presented to the Chamber of Commerce. I was also told that the Chamber of Commerce and the American Legion, on the day preceding the raid, each had passed a resolution deploring the employment of Japanese as canteloupe pickers and urging that Americans be taken in their place. The petition of the Legion was

migratory workers (among whom were said to be six I.W.W.) and sought to place the blame upon them. But I do not think that the migratory workers of the I.W.W. are the proper ones to be blamed. For one thing, the I.W.W. never have been known to molest or interfere with or injure a fellow workman no matter what his race, color or creed may be. Their activities are always directed against employers and not employees. For another thing, neither the I.W.W. nor the migratory fruit workers have the money to hire huge motor trucks, and of course they do not own such things. Furthermore, the Mayor of Turlock discharged the two policemen who were on duty the night of the raid. They were on duty, but they were no where to be seen when the raid was going on and did not respond to the police signal light which was flashing notice of the disturbance. These two men must have known of the plan for the raid and absented themselves purposely from the

scene of it. I note by this morning's paper that one of these policemen is now under arrest for failure to do his duty. All these facts confirm my opinion that while some of these migratory workers undoubtedly participated in the raid, that they did not plan or manage it. That it was planned and managed by certain of the towns-people of Turlock who believed that public sentiment would approve their action.

I discussed the matter with the peace officers of Turlock, with the Sheriff of Stanislaus County and with the District Attorney's office of the same county. All of these officials assured me that they proposed to see to it that no such thing occurred again and those guilty should be found out and punished. They promised there would be no "let-up" until the guilty had been found and punished, and they seemed to be sincere in these statements.

Public sentiment, generally, condemns the raid

第七七号

貴電第二八一号ニ関シ「ターラック」事件ニ対スル桑港商業會議所ノ公正ナル態度ノ表明ハ帝國政府ノ多トスル所ナル旨ヲ書添ヘ「アレクサンダー」ニ対シ一応ノ挨拶ヲナシ置カレタシ

右在米大使及「ロス・アンゼルス」ヘ転電アレ

二六二 八月七日 在桑港矢田総領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

ターラック事件予備公判ニ於テ嫌疑者六名有  
罪決定、直ニ上級裁判所ニ回付セラレタル件

第二八八号 (八月八日接受)

往電第二七一号ニ関シ

八月五日「モデスト、コート、オブ、ジャスチス」ニ於テ「ターラック」事件ニ対スル予備公判開カレタルガ嫌疑者六名(右ハ多クハ「ターラック」ノ住民ニシテ青年多シ前電報告嫌疑者中右以外ハ証拠不充分ノ為メ釈放セラレタリ)ハ全部有罪ノ決定アリ直チニ上級裁判所ニ回付セラレタリ尚右公判傍聴ニ出向キタル在米日會書記ノ報告ニ依レバ右公判審理中米國官憲ノ態度公正ナリシ趣ナリ

五 米國ニ於ケル排日關係雜件 二六二 二六三 二六四

in no uncertain terms, and while the incident was bad enough and very dangerous, I believe much good will come from it throughout the country. It will serve to further show the people of the East what kind of propaganda has been going on in California against the Japanese: and it has served to arouse opinion against useless anti-Japanese agitation, even in California. I am writing letters to Eastern newspapers and magazines describing the incident and ascribing it to the effect of the merciless agitation that has been carried on in California for more than two years against the Japanese.

Respectfully submitted,

W.R.

July 25, 1921.

二六一 八月二日 内田外務大臣ヨリ  
在桑港矢田総領事宛(電報)

桑港商業會議所ノ公正ナル態度ニ対シ同所会  
頭ニ挨拶方訓令ノ件

在米大使羅府領事ニ電報セリ

二六三 九月二日 在桑港矢田総領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

渋沢子爵渡米說ニ関シ問合ノ件

第三一五号 (九月三日接受)

新聞電報ニ依レバ渋沢子爵最近渡米ノ筈ナル趣ナルガ当地「アレクサンダー」其他ノ方面ヨリ本官ニ問合セ来リ若シ事実ナラバ真面目ニ考量スベキ問題モアル由ニ付御確メノ上御回電相煩ハシ度シ

二六四 九月五日 内田外務大臣ヨリ  
在桑港矢田総領事宛(電報)

渋沢子爵渡米未定ノ件

第九〇号

貴電第三一五号ニ関シ渋沢子爵ニ開合セタル処其ノ意思ナキニ非ザルモ目下ノ処尚未定ナリ何レ一二週間内ニハ何レカニ決定シタシトノ事ナリ

二六五 九月十二日 内田外務大臣ヨリ  
在桑港矢田総領事宛(電報)

渋沢子爵渡米決定ノ件

二六五

第九四号

往電第九〇号ニ関シ渋沢子爵ニ於テ東部旅行ニ際シ当地ヨリ「ス」市大学「ジョルダン」博士ヲ同伴シタキ希望アルニ付同博士ノ内意確メ方川崎ミノタロウ等ヨリ当地知人ニ來信アリタルヲ以テ意向ヲ尋ネタル処個人ノ資格ニテ喜ン

二六六 十月一日 在桑港矢田総領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

ターラック事件公判ノ日取決定ノ件

第三四九号 (十月二日接受)

往電第二八八号ニ関シ

「モデスト、スーペリアー、コート」ニ於ケル本件公判ハ十一月二十八日開廷ノ旨発表セラレタリ

二六七 十月四日 在桑港矢田総領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

渋沢子爵ノ東部旅行ニ際シジョルダン博士ノ

同行内諾ニ付大体ノ旅程等問合ノ件

第三五二号 (十月五日接受)

貴電第九四号ニ関シ渋沢子爵ニ於テ東部旅行ニ際シ当地ヨリ「ス」市大学「ジョルダン」博士ヲ同伴シタキ希望アルニ付同博士ノ内意確メ方川崎ミノタロウ等ヨリ当地知人ニ來信アリタルヲ以テ意向ヲ尋ネタル処個人ノ資格ニテ喜ン

二六九 十月九日 在桑港矢田総領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

フィーラン氏本邦視察ニ際シ同氏ニ対スル接

遇振ニ関スル件

第三五七号 (十月十日接受)

前上院議員「フィーラン」十二日当地発ノ Hoosier State 号ニテ家族同伴世界漫遊ノ途ニ上リ先ツ本邦ヲ視察スル由ノ処御承知ノ通りノ人物故本邦上陸後ノ待遇振リニ付テハ然ル可ク手心ヲ用ヒラルル様御取計ヲ請フ

二七〇 十月十一日 内田外務大臣ヨリ  
在ヴァンクーヴァー斎藤領事宛(電報)

加奈陀俱樂部ノ招待ニハ応シ難キ旨渋沢子回

答ノ件

第二〇号

貴電第三八号ノ趣渋沢子爵ニ伝達セル処今回ハ往復共ニ桑港航路ニ依ルノミナラズ往キニハ東部ニ急行スル為太平洋岸ニ時日ヲ割キ難ク帰途ハ桑港布哇ニテ許ス限りノ時間ヲ以テ排日問題ヲ研究シ度ク同方面ト既ニ約束済ナル上老体ノ事ニモアリ加州ヨリ北上ヲ困難トスル事情アルニ因リ旁

デ來ルベシ但シ目下着手中ノ仕事モアリ旁々可成早ク直接同子爵ヨリ公然ノ交渉ニ接シタシトノコトナル由ニ付同博士ノ同行スベキ大体ノ旅程及旅費等ノ点モ併セテ至急御申越ヲ乞フ

在米大使へ電報セリ

二六八 十月九日 在ヴァンクーヴァー斎藤領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

在ヴィクトリア加奈陀俱樂部会長ヨリ渋沢子

爵招待轉達方依頼越シタル件

第三八号 (十月九日接受)

在「ビクトリア」加奈陀俱樂部会長ヨリ渋沢子爵渡米ノ折ヲ以テ同地ニモ來遊一場ノ演説ヲ仰キ度旨ヲ以テ招待轉達方ヲ本官ニ請ヒ來リタル処諸種ノ原因湊合シ本官着任前後ヨリ当州ニ於ケル排東洋人運動激烈ヲ極メ商業會議所モ之ニ同ジ総選舉期ノ切迫スルト共ニ更ニ其氣焰ヲ加ヘ侮リ難キモノアルヲ以テ斯ル名士ノ來遊ハ頗ル望マシキ事ト思考セラルルニ付是非巡遊ノ時間ヲ割キ当地並「ビクトリア」ニ數日ヲ費ヤサル様本省ヨリ同子ニ御委囑願ハレマジキヤ先方ヘ回答ノ都合モアルニ付何分ノ御回電ヲ請フ

二七一 十月十一日 在桑港矢田総領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

フィーラン氏ノ訪日ニ際シ同氏ニ対スル新聞

紙等ノ取扱方ニ付其向ニ注意セラレ度件

第三五九号 (十月十二日接受)

往電第三五七号ニ関シ「フィーラン」ハ約二週間本邦ニ滞在シ朝鮮滿洲支那等ヲ視察シテ印度ニ入り歐洲經由歸來スル予定ノ由尚同伴ノ夫人ハ法律上ハ他人ノ妻ナル趣(同人ハ旧教徒ニシテ再婚スルヲ得ズ)ナルガ若シ本邦新聞紙等ニテ其ノ辺ノ機微ヲ曝露シ惡辣ナル攻撃ヲ加フルガ如キ事アリテハ徒ラニ同人ヲ憤激セシムルノミニテ当地方將來ノ為好マシカラザルニ付出來得レバ其ノ向ヘ御注意願ヒタシ在米大使へ電報ス

二七二 十月二十五日 在ホノルル矢田総領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

渋沢子一行ノ為米人商業會議所主催ノ晚餐會  
催サレタル件

第六三號

(十月二十六日接受)

渋沢子一行春洋丸ニテ十月二十二日着当市米人商業會議所主催ニテ Pacific Club ニ於テ同子爵ヲ主賓トシ晚餐會ノ催アリ同時ニ木村書記官其ノ他モ列席知事商業會議所會頭渋沢子 E. Peat 前知事小官及添田氏交々食後演說ニ於テ日米親善ヲ高調セリ子爵ハ帰路再ヒ当地ニ立寄り一週間滞在ノ上当地ニ於ケル日米人關係ノ事業ヲ視察シ米人側ト隔意ナキ意見ノ交換ヲ行ハルル予定ニテ米人側ハ大ニ之ヲ歓迎シ居レリ

二七三 十一月三十日

在桑港矢田總領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

ターラック事件公判モデスト市上級裁判所ニ

於テ開始竝日本人証人呼出ニ付係檢事ヨリ尽

力方懇請アリタル件

第四一〇號

(十二月一日接受)

往電第三四九號「ターラック」事件ニ関シ十一月二十九日在「モデスト」市「スタニスロース」郡上級裁判所ニ於テ公判アリ檢事及被告弁護士ノ都合上証人訊問ヲナスニ至ラズシテ延期ヲ申立テ判事ヨリ一月三十一日再ビ公判ヲ開ク

旨ヲ告ゲ閉廷セリ之ヨリ先二十六日係檢事「ブラウン」本官ヲ來訪シ本件審理上必要ナル証人トシテ数名ノ日本人ニ對シ呼出狀送達ノ手續中ナルガ居所不定ノ者多ク公判期日ニ間ニ合フヤ否ヤ懸念セラルルニ付之等証人ヲ出廷セシムル様尽力方懇請アリタルヲ以テ直ニ關係日本人會ヲシテ証人呼寄方ノ手筈ヲナサシムルコトセルモ其ノ結果不得要領ニシテ一方公判期日切迫セルニ付二十八日不取敢城副領事ヲ「ターラック」及「モデスト」ニ急派シ檢事ニ応援セシメ漸ク重ナル証人数名ヲ呼集メ得タルニ付翌二十九日同副領事ハ之等証人ヲ携同シテ「モデスト」ニ至リ早朝檢事ト打合せヲ遂ゲタル上公判ヲ傍聴セルガ閉廷後檢事ノ希望ニ依リ其ノ事務所ニ於テ各証人ヲシテ一々事實當時ノ事情ヲ陳述セシメ且ツ次回ノ公判ニ相違ナク出頭スベキ旨申含メタリ本件ニ付テハ「ターラック」日會ノ名ヲ以テ一ヶ月以前ヨリ連日邦字新聞ニ広告シテ証人ノ所在ヲ搜索スル等苦心シタルニ拘ラズ被害者ハ頗ル冷淡無頓着ニシテ漸ク糾合シ得タル数名ノ証人モ其ノ陳述曖昧ニシテ有力ナル証言ヲ為シ得ザル為係檢事モ事件ヲ進行セシムル上ニ於テ甚シク困難ヲ感ジ居レリト述ベ居レリ

城副領事出張追認ヲ請フ

在米大使ヘ電報シ「ロス・アンゼルス」ヘ郵送セリ

二七四 十二月六日

在桑港矢田總領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

オー克蘭ド高校ヲ優秀卒業ノ日本女子学生

ニ代表式辭ヲ述ベシムベキ旨發表セルニ對シ

白人学生等反對運動ヲ起セル件

第四一五號

(十二月九日接受)

古田雪(十八歳)ナル米國出生本邦女子今回「オー克蘭ド、ハイスクール」ヲ抜群ノ成績ヲ以テ卒業シタルヲ以テ校長ハ慣例ニ從ヒ同女ヲシテ卒業式ニ女生徒ヲ代表シテ式辭ヲ述ベシムベキ旨發表シタルニ白人学生ハ日本人ヲシテ自分等ヲ代表セシムル事ヲ好マズトノ理由ニテ烈シキ反對運動ヲ起シタルガ校長ハ学生ノ總代ニ對シ右雪ハ學術品性才能孰レモ優秀ニシテ代表タル資格充分ナリ且ツ校内ニ二十六種ノ人種ヲ包括スル以上人種ノ如何ヲ問題トシ難シト述ベタル趣ナルガ紛擾ハ雪自身代表タル名譽ヲ辭退セル由ナレバ夫ニテ解決スベク事件其モノモ一学校内ノ紛擾ニ過ギザルモ一般白人学生ノ排日の感情ヲ露骨ニ暴露シタル事

件トシテ注意ニ価スルノミナラズ本邦方面ヘ大袈裟ニ伝ヘラルル虞アルヲ以テ右電報ス  
大使ヘ電報ス

二七五 十二月七日

在桑港矢田總領事ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

日本女子学生ノ高校卒業女生徒代表反對運動

ハ白人学生側取止メタル為落着シタル件

第四一六號

(十二月十日接受)

往電第四一五號ニ関シ  
其後各方面ノ人々一齊ニ古田ニ同情シ学生ノ卑劣ナル運動ヲ非難シタルノミナラズ学校当局モ一旦選出シタル代表ヲ理由ナキ反對ノ為ニ取消シ難シトテ雪ノ辭退ヲ許サザリシヲ以テ学生団ハ其ノ非ヲ悟リ六日学校監督官ニ提出シタル連署ノ請願書ヲ取下ゲ落着シタリ  
「クロニクル」ハ本件ニ関シ社説ヲ掲ゲ学生ノ行動ヲ攻撃スルト共ニ古田ノ態度ヲ賞揚シ学生等ガ既ニ過ヲ悔イタル上ハ之ニ對シ寛容ヲ示シテ意ニ介セザランコトヲ望ミ学生ニ對シテハ若シ古田ノ「アドレス」其ノ學業ノ如ク美事ナル出来栄ナラバ拍手ヲ惜マザランコトヲ望ム云々ト述ベタ

リ  
七日在米大使へ電報セリ

二七六 十二月八日 在桑港矢田總領事ヨリ  
内田外務大臣宛

ターラック事件裁判ニ関シ報告ノ件

機密公第六七号 (大正十一年一月九日接受)

大正十一年十二月八日

在桑港

總領事 矢田 七太郎 (印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

「ターラック」事件裁判ニ關スル件

「ターラック」事件裁判延期ノ次第ニ付テハ拙電第四一〇号ヲ以テ不取敢報告致置候処同電末段所報ノ通り被害者中証人トシテ公判ニ於テ有力ナル証言ヲ為シ得ル者少ナク事變突發當時市外ニ追放セラレタル者數十名ニ上リタルニ拘ラズ十一月二十九日ノ公判ニ僅々数名ノ証人ヲ出頭セシムルニ困難ヲ感ジタル有様ニ有之候惟フニ此等被害者ハ當時身体及財産ニ重大ナル被害ヲ蒙リタルニアラズ夜中唐突ニ脅迫追放セラレタルノミニテ被害者各個人ノ立場ヨリ見ル

トキハ所謂恐イ目ヲ見タル位ニ過ギズシテ本件判決ノ結果被告等カ有罪ノ宣告ヲ受クルモ又証拠不十分ノ為無罪放免トナルモ深ク意ニ介セザルモノノ如ク偶々自己ノ居所ヲ突止メラレ証人トシテ出廷ヲ促サレタル者ト雖モ事件ニ掛リ合トナルヲ好マズ心中危惧ノ念ヲ抱キ居ル模様ニ有之候尚又被害者ノ大部分ハ「メロン」収獲期ニ際シ「ターラック」地方ニ集リ來レル労働者ニシテ一定ノ住所ヲ有スル者少ナク事變以後諸方ニ退散シテ其踪跡ヲ知り難ク同地日本人会ガ已ムヲ得ズ邦字新聞紙ニ広告シテ証人タルベキ者ヲ尋ネタルモ今日迄未ダ有力ナル証人ヲ出タス能ハザル状態ニ有之更ニ翻テ「ターラック」地方在留民ノ態度ヲ察スルニ事變當時脅迫追放ニ關与セル犯人百數十名ニ上レルニ拘ラズ犯罪嫌疑者トシテ現ニ被告ノ地位ニ在ル者ハ「ターラック」在住者「ボールデン」外五名ニシテ此等被告ニ對シ有罪ノ判決アルモ民事訴訟ト異ナリ同地方在留邦人ガ之ニ依リ何等直接利得アルニアラズ却テ被告及其一味ノ者ノ恨ヲ買ヒ將來直接間接ニ報復ヲ受クル虞アリトシ証人ノ糾合其他拳証ニ關シ躊躇逡巡シ寧ロ証拠不十分ノ為無罪トナルヲ内々希望シ居ルニアラザルヤヲ疑ハシムル如キ現状ニ有

之候如斯被害者及「ターラック」地方在留民ノ本件裁判ニ對スル態度頗ル消極的ニシテ熱心ヲ欠クヲ以テ檢事「ブラウン」ノ活動アリトスルモ次回即チ來ル一月三十一日ノ公判ニ充分ノ拳証ヲ為シ得ルヤ疑ハシク裁判ノ結果亦予想シ難キ狀況ニ有之候尤モ曩ニ出廷セル証人等ニ對シテハ次回公判ニ必ず出頭スヘキ旨篤ト申含メ尚「ターラック」日本人会ニ對シ極力檢事ニ協力スヘキ旨申達置候ニ付今後檢事ニ於テ相當ノ準備ヲ為シ得ヘキカト被察候  
右及具報候 敬具

二七七 十二月十八日 在桑港矢田總領事ヨリ  
内田外務大臣宛

フィーラン氏滞日中ノ感想記事ニ關スル件

機密公第六九号 (大正十一年一月十日接受)

大正十一年十二月十八日

在桑港

總領事 矢田 七太郎 (印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

「フィーラン」ノ滞日感想記事切抜送付ノ件

前上院議員「フィーラン」ノ渡日ニ關シ拙電第三五七号及

五 米國ニ於ケル排日關係雜件 二七七 二七八

第三五九号ヲ以テ本邦上陸後ノ待遇振等ニ付手心ヲ加ヘラレタキ旨申進置候処同人ガ十月三十一日光ヨリ当地「エグザミナー」ニ寄セタル滞日感想(十二月十八日「エグザミナー」日曜版所載)ヲ見ルニ從來極端ナル排日說ヲ鼓吹シ今回ノ旅行ニ於テモ横濱到着ノ際本邦新聞記者等ニ對シ同人一流ノ論鋒ヲ以テ露骨ニ加州排日ノ非理ナラザルヲ力説セルニ拘ラズ鎌倉日光等ニ遊ビ本邦ノ風物ニ接シ加州在留民ト趣ヲ異ニスル人士ニ接觸セル結果非常ニ好印象ヲ得タルモノノ如ク本邦上流ノ人ハ高尚ニシテ親切ナリト述ヘ天長節ニ際シ日光見物中群集ノ秩序礼儀アルヲ見テ深ク感ジタル旨記述スル等其筆法ニ大ナル變化ヲ來セルヲ認メラレ候御參考迄ニ切抜添附此段報告申進候 敬具  
註 切抜省略

二七八 十二月三十日 在シアトル佐藤領事代理ヨリ  
内田外務大臣宛

波沢子爵添田博士一行シアトル來着ノ件

公第三三六号 (大正十一年一月二十六日接受)

大正十一年十二月三十日

在シアトル

領事代理領事官補 佐藤 敏人

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

渋沢子爵添田博士一行来沙ニ關スル件

子爵渋沢栄一閣下法学博士添田寿一氏ハ日米關係委員會ヲ代表シ日米親善關係維持増進ノ目的ヲ以テ先般来北米合衆國各地ヲ巡歴中ノ処羅府桑港ヲ經テ十二月二十七日「シアトル」来着同二十九日「シアトル」ヲ發シ「ポートランド」ニ向ハレ申候当地滞在中僅ニ二日間各方面ノ米國有力者及在留日本人ノ重立チタルモノニ接觸シ意見ノ交換ヲナシ殊ニ米人ニ對シテハ移民問題支那問題等ニ關シ我日本ノ立場ヲ闡明シ米人ノ蒙ヲ啓クニ努メラレ候今同子爵一行ノ滞在中日程ヲ挙グレバ左ノ如クニ候

十二月二十七日午前六時三〇分桑港ヨリ「シアトル」来着

〃〃 午前中新聞記者及來訪者接見

〃〃 午後一時ヨリ「サミュエル、ヒル」氏邸午餐會

〃〃 午後六時半ヨリ「シアトル」商業會議所主催公

式晚餐會

十二月二十八日午前中日本人會幹部接見懇談

〃〃 午後〇時三十分ヨリ領事代理主催午餐會

〃〃 午後三時ヨリ華盛頓大學日本人學生會館參觀

〃〃 午後四時三十分ヨリ「ローマン」氏邸茶話會

〃〃 午後六時三十分ヨリ日本人會日本人實業俱樂部主

催晚餐會

〃〃 午後八時ヨリ子爵及添田博士講演會

十二月二十九日午前十時「シアトル」出發「ポートランド」ニ向フ

尚「シアトル」商業會議所主催歡迎會ニ於テハ同所外國貿易部長「イー、ジー、アンダーソン」氏司會ノ下ニ「レニア」俱樂部長「ステムソン」氏前内務卿「ハリンチャー」判事「トーマス、バーク」判事「オースチン、グリフィス」判事等ノ歡迎ノ辭アリ之ニ對シテ子爵及添田博士ノ答辭アリ來會者約六十名ニ達シ候又本官主催歡迎午餐會ニ於テハ米人側ヨリ「シアトル」部長「ヒュー、エム、カルドウェル」前合衆國上院議員「サミュエル、エッチ、パイルス」華盛頓州立大學總長「ヘンリー、スゼルー」博士前「シアトル」商業會議所會頭「レチナルド、エッチ、パーソンズ」「トーマス、バーク」判事「ジェー、デー、ローマン」税

關長「ミラード、テー、ハートソン」第一長老教會 師牧

「エム、エー、マシウス」博士其他当地有力實業家新聞記者等二十三名日本人側ヨリハ当地ニ支店ヲ有スル日本大會社代表者日本人會幹部等十九名ノ出席者アリ頗ル盛會ニ候

追而同子爵一行来沙ニ際シ当地英字新聞記事切抜御參考迄

ニ及添附候條御査閱相成度此段報告申進候

敬具

註 新聞記事切抜省略